

発達障害作業療法学演習

[演習] 第3学年 前期 必修 1単位

【担当者名】 本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp 湯川正雄 田中栄一 八田達夫

【概要】

発達障害の作業療法における治療の実際と支援方法について学修する。発達障害における作業療法での遊びの治療的応用とその効果について理解を深め、代表的な疾患、障害について、その臨床像における治療的視点、治療計画の立案、作業療法の実際を学修し、治療の基本的技術について演習を通して習得する。発達段階とその段階における発達課題を理解し、感覚、運動の側面から、玩具や遊具を用いた治療介入の仕方について実際に体験することにより理解を深める。

【学修目標】

【一般目標】

治療的関わりについて、演習を通して理解を深める。

【学習目標】

1. 姿勢分析を行い、作業に適したポジショニングを考え、実施することができる。
2. 遊びの治療的応用について説明できる。
3. 発達検査の内容を知り、検査結果を作業療法評価およびプログラム立案に用いることができる。
4. 感覚統合理論について理解し、作業療法に応用することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	オリエンテーション ポジショニング	授業の進め方、授業概要 姿勢分析とポジショニング	本家寿洋 湯川正雄
3) 4	ポジショニング	姿勢分析とポジショニング	湯川正雄
5) 6	遊び	遊びの治療的応用	湯川正雄
7) 8	神経・筋疾患	神経筋疾患の呼吸管理 神経筋疾患の姿勢・ポジショニング	本家寿洋 田中栄一
9) 10	神経・筋疾患	神経筋疾患の遊びの治療的応用	本家寿洋 田中栄一
11) 12	感覚統合	感覚統合理論	本家寿洋 八田達夫
13) 14	感覚統合	感覚統合遊具を使用した遊びの展開	本家寿洋 八田達夫
15	事例演習	発達検査からプログラム立案まで	本家寿洋 湯川正雄

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

適宜資料を配布

【参考書】

テレサ・E・パウントニー 他 著 「脳性まひ児の24時間姿勢ケア」 三輪書店 2006年
Jung Sun Hong 著 「正常発達-脳性まひの治療アイデア- 第2版」 三輪書店 2014年
岩崎清隆 著 「発達障害の作業療法【第2版】-基礎編-」 三輪書店 2015年
岩崎清隆 他 著 「発達障害の作業療法【第2版】-実践編-」 三輪書店 2015年
佐藤剛 他 著 「みんなの感覚統合?その理論と実践?」 パシフィックサプライ 1996年

【学修の準備】

この授業は、2年次「発達系評価学」「発達障害作業療法学」で学んだことをもとに演習を行う。そのため、予習、復習については以下のように準備すること。

予習は、次回授業範囲に該当する授業プリント等を復習し、理解しておくこと(20分)。

復習は、2年次、3年次で使用した教科書および演習で使用したプリント等を活用し、今まで習得した知識と演習内容の統合を行うこと(20分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

本家寿洋(作業療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

発達障害領域における医療機関、福祉機関の臨床経験を活かし教育を行う。